

アカデミック・スキル

科目責任者 矢澤 卓也

学年・学期 1 学年・1 学期

I. 前 文

大学で主体的・積極的に学ぶために必要な技法（アカデミック・スキル）について学修する。大学生としての授業への取り組み方や社会人としての態度、作法について学修する。また学術的な文章を作成し表現するための基礎的な知識に加え、論理的に考える方法について学修する。

II. 担当教員

教授 矢澤 卓也 病理学
 教授 小西 美樹 小児看護学
 その他 医学部・看護学部教員, 外部講師

III. 一般学習目標

大学生として主体的, 積極的に学ぶために必要な技法について理解し, 実践する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 学問の重要性を理解し, 獨協医科大学医学部で学ぶことの意味を理解できる。
- 2) 大学生としてのアカデミック・スキルとキャンパスマナーを実践できる。
- 3) 大学での学修と自分自身の将来像との関連性を説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ, 知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
 2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
 6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	4	13	月	1	[講義・演習] ガイダンス 学びの本質を理解し, 何のために大学で学ぶのかを考える。	小西美樹, 矢澤卓也, 他 (小西美樹)	2
2		13	月	2	[講義・演習] キャンパスマナー	小西美樹, 矢澤卓也, 他 (奥田竜也)	2
3		13	月	3	学生や教職員など大学でお互いに尊重しながら学び, 生活するための方法を学ぶ。	小西美樹, 矢澤卓也, 他 (奥田竜也)	2
4		14	火	1	[演習] コミュニケーションスキル コミュニケーション促進ゲームを通じて, チームで相談・協力することを体験的に学ぶ。	小西美樹, 矢澤卓也, 他	3
5		14	火	2	[講義・演習] 医療者に必要な健康と生活の管理	小西美樹, 矢澤卓也, 他 (戸沢智也)	2
6		14	火	3	医療者 (医療系学生) に求められる健康と生活の管理について考える。	小西美樹, 矢澤卓也, 他 (戸沢智也)	2
7		15	水	1	[講義・演習] 情報を集め, 整理する技術 文献や資料を収集する方法, および, 情報を正確に解釈し, まとめ, 保存する方法を学ぶ。	小西美樹, 矢澤卓也, 他 (小西美樹)	2
8		15	水	2	[講義] ディスカッションのしかた	小西美樹, 矢澤卓也, 他 (柏木維人)	2
9		15	水	3	議論する目的と意義, 相手の話を聞く態度, カンファレンスの運営について学ぶ。	小西美樹, 矢澤卓也, 他 (柏木維人)	2

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブ ラーニング
10	4	16	木	1	[講義] プレゼンテーションのしかた パワーポイントを使い、効果的に相手に伝える方法を学ぶ。	小西美樹, 矢澤卓也, 他 (川瀬 撰)	2
11		16	木	2	[講義] レポートの書き方 論理的な文章表現法, 論証型レポートの書き方について学ぶ。	小西美樹, 矢澤卓也, 他 (石井 順)	2
12		16	木	3			
13		20	月	1	[演習] 医療現場の接遇 講義・演習を通じ, 身だしなみ, 立ち居振る舞い, 会話力, 対応力などに基づく医療現場で求められる接遇について理解 を深め, 行動化できるようになることを目指す。	外 部 講 師	4
14		20	月	2			
15		20	月	3	[講義] 獨協学園の歴史 先人達の思想を知り, 自分との接点を見出す。	奥 田 泰 久	
16		28	火	6	[ゼミ演習] プレゼンテーション演習 本を1冊読み, 自分の考えをまとめて, プレゼンテーション する。	小西美樹, 矢澤卓也, 他	5
		28	火	7			
17	5	7	木	6	[ゼミ演習] ディスカッション演習 答えがない(または一つではない) 課題についてグループメ ンバーと意見を交わし, 結論をまとめる。	小西美樹, 矢澤卓也, 他	2, 3
		7	木	7			
18		13	水	6	[ゼミ演習] レポート演習 お互いのレポートを読み, よりよくするために建設的に意見 交換する。	小西美樹, 矢澤卓也, 他	2, 3
		13	水	7			

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

成果物 (レポート, プレゼンテーション資料, 議事録) の評価40%, ゼミ演習の参加度30%, リフレクション (本日の講義を踏まえて考えたことや新たな疑問を記述したもの) の提出30%とする。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

- 1) 名古屋大学高等教育研究センター, ティップス先生からの7つの提案 学生編 (<https://web.cshe.nagoya-u.ac.jp/publication/tips/>)
- 2) 小野田博一. 13歳からの論理ノート「考える」ための55のレッスン. PHP研究所.
- 3) 世界思想社編集部. 大学生 学びのハンドブック5訂版. 世界思想社.
- 4) 佐藤 望, 他. アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門. 第3版. 慶應義塾大学出版会.
- 5) 向後千春. 18歳からの「大人の学び」基礎講座. 北大路書房.
- 6) 鈴木克明. 美馬のゆり. 学修設計マニュアル「大人」になるためのインストラクショナルデザイン. 北大路書房.

VIII. 質問への対応方法

随時, 質問を受ける。授業に関する内容についてはクラス全体にフィードバックする。

矢澤卓也: tkyazawa@dokkyomed.ac.jp オフィスアワー 水曜 12:00~13:00

小西美樹: konimiki@dokkyomed.ac.jp オフィスアワー 水曜 12:00~13:00

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 講義資料は事前にLMSに掲載し、学生の学修状況を確認する。
- ・ 演習時は、与えられた課題に基づいて小グループでディスカッションを行い、各々の意見を交換し合う。
- ・ LMS等を用いて学生の理解度を確認し、講義内で細く説明する。
- ・ 講義内で実施した課題やLMSに挙げられた質問については、講義内やLMSで回答・解説する。
- ・ 成績評価の結果は「授業評価の回答および成績評価の講評」に記載しフィードバックする。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（30～60分）：事前に配布される講義資料に目を通し、発表の準備を行う、あるいはレポートを作成する。

事後学習（30～60分）：リフレクション（本日の講義を踏まえて考えたことや新たな疑問を記述したもの）、あるいは修正したレポート/プレゼンテーション資料をLMSにて提出する。

XII. コアカリ記号・番号

PR-01, PR-02, PR-03, PR-04, LL-01, LL-02, IT-01, IT-02, IT-03, IP-01, IP-02